

## 大乘寺の文化財【古美術】



重要文化財《佛果碧巖破悶擊節（一夜碧巖集）》上巻 希玄道元  
—「大乘寺の文化財」より—

### 《荏柄天神縁起絵巻》と天神画像

—前田家の天神信仰— 【前田育徳会尊經閣文庫分館】

### 優品選【近現代工芸】

### 音楽と舞【近現代絵画・彫刻】

### 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics
- 2月の企画展示室
- 友の会バスツアー報告
- ミュージアムレポート
- 学芸室の人々
- 友の会予告
- 2月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

# 《荏柄天神縁起絵巻》と天神画像

—前田家の天神信仰—

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

二月二十五日は、菅原道真の忌日です。加賀藩前田家は、この菅原道真を家祖として代々崇めていたことから、道真関係の書籍典籍の収集に努めます。中でも、五代綱紀の時代に、書物奉行山本基庸によって求めたのが、鎌倉の荏柄天神社に伝わる《荏柄天神縁起絵巻》です。

荏柄天神社は、福岡の大宰府天満宮・京都の北野天満宮とともに、歴史を持つ天神社のひとつにあたります。鎌倉幕府の鬼門に位置したことから、源頼朝だけでなく、その後も長く関東一円の崇敬を集めました。道真の生前の物語とその没後の逸話を描き、北野天満宮建立までのエピソードを絵画化した《北野天神縁起絵巻》は、各地の天神社・天満宮に伝わりますが、今回展示する絵巻はこの荏柄天神社に伝わった

ことからの《荏柄天神縁起絵巻》と称されます。令和三年二月に前田育徳会展示室にて、重要文化財の《荏柄天神縁起絵巻》の上巻をすべて展示したことに続いて、今回はその続きとなる中巻と下巻を紹介いたします。上巻は、大宰府に向かう船に乗る道真の姿で終わりましたが、その後、どのように話は続くのでしょうか。

中巻は、天拝山へ七日七夜登って無実を訴え、天満大自在天神となった「祈天拝山」の場面のほか、その没後、亡霊となった道真が恨みを晴らさんと尊意僧正に訴える「柘榴天神」の場面、鳴雷となって清涼殿に雷を落とす「清涼殿落雷」の場面と、道真をめぐるエピソードの重要シーンが続きます。

重要文化財《荏柄天神縁起絵巻》より「清涼殿落雷」

# 大乘寺の文化財

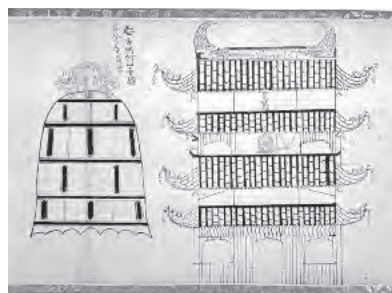
2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

金沢市にある大乘寺は、曹洞宗が永平寺以外の地に初めて播かれた寺院であることから、「曹洞宗第二の本山」とも称される古刹です。また、大乘寺の二世瑩山紹瑾は、總持寺(現在の總持寺祖院)の開山としても知られ、曹洞宗の二つの大本山(永平寺および總持寺)と関わりの深い寺院といえます。

大乘寺に伝わる文化財は、昭和四十七年(一九七二)までに当館に寄託されています。その中には、重要文化財や石川県指定文化財など、貴重な文化財が多数含まれています。本展では、それらの文化財の内、希玄道元が記したとされる《佛果碧巖破関撃節(一夜碧巖集)》や《羅漢供養講式稿本断簡》をはじめ

とした重要文化財五点や、伝狩野光信《四季耕作図》などの石川県指定文化財三点も展示いたします。また、菩提達磨に関連する作品もご紹介いたします。達磨を主題とした作品は数多く制作されました。達磨という赤くて丸い置物が真つ先にイメージされますが、これは達磨の坐像をまねしてつくられたとされています。《達磨図》の赤い頭巾をかぶった姿は、たしかに置物の達磨に通じるようにも見えます。

この時期の恒例ともいえる「大乘寺の文化財」。本年も見ごたえのある作品をそろえました。ぜひお楽しみいただけますと幸いです。



重要文化財《支那禪刹図式(寺伝五山十刹図)》(部分)

## 音楽と舞

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

第4展示室では彫刻を中心に、音楽や舞踊、ダンスにまつわる作品を集めます。作品が動きだすことにはないですし、音が鳴ることもありません。しかし、作者の表現力によって、躍動感のある身体の動きや迫力ある一瞬のポーズ、音楽の楽しい雰囲気などが実現します。作品を見る楽しさを存分に感じていただけのことと思います。

展示作品から数点を紹介します。得能節朗《歌姫》は、台湾人歌手のステージ姿の美しさに魅せられて制作した作品です。下地に金箔をはりつけ、渋い緑色で着色しています。扇をもつ印象深いポーズで、流れるような肉体の線と形の美しさを表現しています。

長谷川八十《踊る女》は、踊る人物の身体を抽象化

した作品です。作者が昭和三十年代に渡欧した際、彫刻家ザッキンと親交を結んでその影響を受け、またピカソなどからも感化を受け、具象から抽象へと作風を幅広く展開させた時期の制作となります。本作はバレリーナから構想を得たものと思われませんが、音楽に合わせ軽快に踊る姿が、単純化された形によく表れています。

清水良治《花祭り・鬼》は、作者の故郷である愛知県奥三河に七百年前から伝わる「花祭り」をモチーフにした作品です。鬼に扮した人々の舞が特徴的で、本作では、まさか振り下ろす動作を力強いタッチであらわしています。

様々な音楽の楽しさ、舞の美しさをご堪能ください。



得能節朗《歌姫》

## 優品選

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

今年度最後の近現代工芸・優品選では、待ち遠しい冬から春に向けてみられる風景、自然の草花などを中心にご覧いただきます。

それぞれ材質別に冬を感じるものから春へと季節を感じられる表現の作品展示となっていますが、壁面ケースでは染織を中心にパネルと着物というそれぞれの形態の異なる染めでの表現に注目ください。作品はパネルでは堀友三郎《春の風》や成竹登茂男《華》、着物では羽田登喜男《友禅白地洋蘭花車文振袖「辛のおとずれ」》や白坂幸蔵《友禅訪問着「春を待つ」》ほかを。モチーフの配置の違いや、それぞれに持っている迫力のあるデザイン構成の美しさをお楽しみいただけます。

また中村研一《八重椿図皿》《紅白梅皿》ほか、陶磁では椿や梅など春の草花の表現を中心にそろえてみました。季節の流れに咲く花の色、暖かさ、強さなど、同じ花でもそれぞれの表現の違いをお楽しみいただけます。

漆工では寺井直次《金胎蒔絵水指「梅」》、小松芳光《早春潺々盆》や藤井観文《片切沈金彫春秋花文飾筥》ほかを。截金では西出大三《截金彩色油色「花の合子」》《截金彩色「立雛」》二点を展示します。目を見張る細かな模様から放たれる華やかな金彩作品をじっくりとご覧いただきたく思います。このほか木村雨山の《紅白梅図》が展示室を春色に彩っております。木村雨山が染色としてでは無く、日本画で表現した紅白梅をあわせてお楽しみください。



寺井直次《金胎蒔絵水指「梅」》

# 「かね展」デジタル図録をつくりました

みなさま、企画展「かねは雄弁に語りき―石川県立美術館の金属コレクション―」(通称:かね展)はお楽しみいただけただけでしょうか。本展に合わせ、作品の解説が読める「デジタル図録(電子ブック)」をつくりました。展示された作品の画像と解説を、お手持ちのスマホやパソコンでどこでもご覧いただけるという新しい試みです。画面上でページをめくったり拡大したり、目次を押すと章の始めのページにジャンプしたりと、まさに便利な本のようにお楽しみいただけます! 会期が終わったあとも公開は続けますので、ぜひ折々にご覧いただけると嬉しいです。



本のようにめくってご覧ください



こちらのページに掲載中です!

# 優品選

2月11日(土・祝)~3月22日(水) 会期中無休

厳しい寒さが続く中、待ち遠しい春をテーマにした各分野からの作品をご紹介します。

油彩画分野からは、小糸源太郎《春蘭》を紹介し、す。桜や木々を色のマッスとして捉え、穏やかな色彩で京都嵐山の春爛漫の景色を描いた、春の陽光のあたたかさが感じられる作品です。

版画・素描分野からは、画家であり詩も手がける難波田龍起の水彩画と版画を紹介します。難波田は形や色でも表現する詩人にふさわしく、澄んだ色彩や連続したモチーフで生命感あふれる独自の画風を築きました。難波田が確立した日本的な诗情あふれる抽象表現をご覧ください。

彫刻分野からは、田中昭《春葩》を紹介します。「葩」

とは、花(びら)、はなやか、などの意味です。若い女性の何気ない姿態を無駄のない肉付けで表現した作品で、明るく健康的な雰囲気を感じられます。着衣部分の表現も自然で、作家の高い力量がうかがえます。

前回の日本画分野は雪を特集し、画家たちの競演ともいえる多彩な雪の表情をご紹介します。今回は春を待つ心で描いた雪を紹介しながら、移りゆく風景に春を感じていただきます。曲子光男《春雪》は、ひと冬誰も足を踏み入れることのなかった山間に、春の雪が静かに降り積もる様子です。ほかにも前田青邨《紅白梅》など、日本の洗練された春をご覧ください。



曲子光男《春雪》



# 2月の企画展示室

## 第8・9展示室 第28回 北陸国展

2月16日(木)～20日(月)会期中無休

北陸国展は北陸在住の国展出品者を中心に構成され今年で二十八回展となりました。

国画会(国展)は昨年九十六回を迎え、毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体です。草創期の絵画部には梅原龍三郎、香月泰男らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。

北陸国展での成果が毎年、国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部十八名、写真部十七名が力作、大作を若手の新作も交えて発表いたします。是非ご高覧下さいませようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇後援 北國新聞社、テレビ金沢

◇連絡先 横江昌人(北陸国展事務局)

能美市秋常町ニ5-1

## 第7展示室

### 令和4年度 金沢大学学校教育学類 美術教育専修卒業制作展

2月16日(木)～19日(日)会期中無休

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による令和四年度卒業作品を展示します。これは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。

未熟ではありますが是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。なお、在科生の作品も展示しますので、併せてご高覧下さいませようお願いいたします。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市角間町 金沢大学

人間社会学域学校教育学類 江藤望

電話・076-264-5582

## 第7・8・9展示室 前衛書家 表立雲軌跡展 '22 玄土社書展

2月23日(木・祝)～27日(月)会期中無休

令和三年五月、玄土社主宰表立雲が他界いたしました。一筋に「書」の道を追求め、漢字書家、前衛書作家、さらに書の古典研究者として巨きな足跡を遺しました。その軌跡を辿る展覧会として、漢字作品、前衛書、古典臨摹の計八十点を展示いたします。表立雲ならではの幅広い表現の世界をご堪能下さい。

併せて'22玄土社書展を開催いたします。私たちの畏敬する指導者であった表立雲が提唱した「創作には冒険心を、臨摹には探求心を」という理念は玄土社活動の基本姿勢です。二〇二二年中に発表した作品の中から創作、古典臨摹の計五十四点を展示いたします。

◇入場無料

◇連絡先 玄土社本部(表義章)

金沢市本多町1-7-15

電話076-263-3730

## 0才からのファミリー鑑賞会

令和4年9月23日(金・祝)実施

「0才からのファミリー鑑賞会」は、赤ちゃんから小さなお子さんに美術館で作品を楽しむ方法をご案内するイベントです。当館では二〇一六年度から、NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会・代表理事の富田めぐみ氏を講師に迎え、コロナ禍でのオンライン開催も含め継続的に開催してきました。今年度は久しぶりに対面での開催となり、九月二十三日(金)に一日三回、各五組の募集を行いました。受付開始日で希望枠が埋まる反響の大きさに、作品との対面を心待ちにしていたのだを実感しました。

今回は初めて美術館で作品と出会う方どなたにも楽しく鑑賞できるように企画した第5展示室(近現

代工芸)「みんなでのたのしむ はじめての工芸」での活動となり、参加した生後五か月から小学校二年生までのお子さんと保護者は、富田氏との鑑賞にとっても入り込みやすく、親しみやすく、楽しかったのではないかと思います。参加者の感想として、「なかなか小さい子どもを抱えると遠ざかっていた美術館に久しぶりに来て嬉しかった。」「子どもに向けた作品の説明をわかりやすくしていただけて、感じたことを自由にいえる雰囲気良かったです。」など、良かったというお声をたくさんいただきました。

今後も、状況に合わせて、対面とオンラインのバランスをとりながら、様々な企画を行っていかれたらと思っております。



## 第20回バスツアー報告 「福井の日本遺産を巡る」

令和4年11月3日(木・祝)実施

すつきりとした秋晴れの中で開催した、第20回バスツアーをご報告いたします。

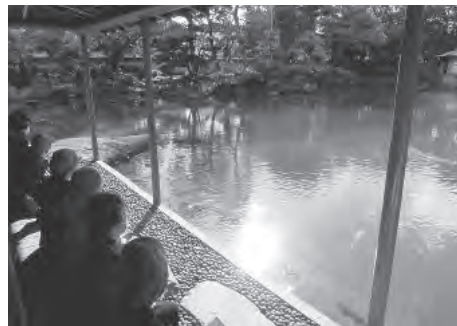
今回は「福井の日本遺産を巡る」と題し、日本遺産「福井・勝山石がたり」に関連した史跡や文化施設を訪ねました。まずは、一乗谷朝倉氏遺跡をガイドの方の説明とともに歩きました。広大な遺跡の中でも復原街並を中心にご散策し、遺跡への理解を深めました。

次に向かったのは、令和四年十月にオープンしたばかりの福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館です。当主の館の実寸模型や当時の街並みを再現したジオラマを、ガイドの方に説明いただいで見学しました。発掘調査で使用する道具類の体験コーナーやタッチパネルなどもあり、遊びながら遺跡について学ぶこと

ができました。

午後は、養浩館庭園と福井市立郷土歴史博物館へ。紅葉真っ盛りの養浩館庭園を散策し、屋敷内にて建物の歴史や特徴についての説明を受けました。すぐ隣の福井市立郷土歴史博物館では、常設展のほか企画展「ジャパニーズ・ウエディング」を観覧し、艶やかな婚礼調度を楽しみました。

皆さまのおかげで今回も大きなトラブルなどなく、無事に終えることができました。ご参加いただき、誠にありがとうございました。今回のバスツアーでの反省を生かし、今後もよりよいイベントを開催してまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております！



## 学芸室の人々

谷岡 彩(学芸第一課学芸員)

この冬のマイブームはシュトーレンとおでんです。色々なお店のシュトーレンを試してみようと、情報をいただいてはチェックし、今年こそ究極のおでんを作ろうと、お出汁や具材について下調べする日々を送っています。大学時代には「よい作品を見よ、おいしいものを食べよ」と恩師から厳しく(?)教わりました。素晴らしい作品に触れ、おいしいスイーツやお料理を食べられることは、幸せなことだと思えます。

令和五年度も友の会会員を募集します。次号(3月・43号)で募集案内と手続き書類をお届けいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開会式への招待、バスツアーや現地見学の中止など、例年通りのサービスをご提供できない可能性があります。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

◇会費 2,000円

◇受付期間 令和5年3月1日(水)より開始。

◇会員証の有効期限…令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 2月の行事予定

■土曜講座	13時30分～15時	美術館講義室	無料
4日(土)	「明治の輸出工芸と博覧会」	学芸第一課長 寺川 和子	
18日(土)	「来迎図―往生への祈り」	学芸員 鈴木 彩可	

### ご参加にあたってのお願い

- ① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。発熱等体調に不安がある方の参加はご遠慮ください。
- ② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いします。
- ③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
- ④ 会場内では会話を極力ご遠慮ください。

## 友の会 予告

## 《桐懸子透彫付隅切飾箱》 きりかけごすかしぼりつきすみきりかざりぼこ 二代伊藤伊齋 にだいいとういさい

縦25.0 横25.0 高さ13.5 cm  
昭和22年(1947) 第3回日展

明治31～昭和49年(1898～1974)



本作は昨年度新収蔵作品です。桐を材に、四方形を隅切りとし、黒柿をめぐらした合口部分は、身の内側の立ち上がりが高くならない印籠蓋造で、懸子をともなう飾箱です。

蓋は縁からゆるやかに盛り上がる甲盛となっていて、ごくわずかな塵居を設けています。蓋をあけると、中には透かし彫が施された懸子が収まっています。懸子は縁に黒柿を巡らせている他、下方方向へ湾曲させているため、蓋を開けた時に、奥行きを感じさせるような視覚的な効果があります。また、透かし彫でされている文様は本作の見どころのひとつで、意匠化された花や蔓を、見事な刀技で仕上げています。

蓋表に描かれている梅図は、金沢市出身の日本画家・畠山錦成の筆によるもので、寒中に咲く梅の生命力や春の芽吹きを感じさせます。

箱の身部の底面には円形の窪みがあり、その中に「伊齋」の丸印が、蓋表の側面に「錦成」印がそれぞれあります。また、収納箱の表蓋には「指物師／伊齋 印」、蓋裏には「畫 錦成 印」とあります。

二代伊藤伊齋は、金沢市に生まれました。本名勇三。赤倉彦三郎・白井和三郎に師事します。大正13年金沢市木工品展覧会一等賞・県知事特別賞、昭和5年金沢市家具指物展覧会二等賞、19年第23回石川県工芸奨励会美術工芸展技術賞受賞。21年日展初入選。22年東京都主催現代美術展招待出品。40年大丸工芸賞受賞。

## 次回の展覧会

令和5年3月28日(火)  
～4月17日(月)  
会期中無休前田育徳会  
尊経閣文庫分館絵画と調度  
一重要文化財 伝雪舟筆  
《四季花鳥図》を中心に

第2展示室

加賀文化の粹 I

## ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

2月の休館日は  
6日(月)～10日(金)

第3・4・5・6展示室

3月31日(金)～4月17日(月)  
第79回現代美術展  
【日本画・工芸・書】

広告

## 『石川県立美術館だより』に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員・石川県立美術館協力者・  
県内各行政機関及び文化施設・全国の美術館・博物館へ 郵送配布！

2,500部発行

WEBお問合せ  
フォームはコチラ

詳しくはお問い合わせください

株式会社ウィット Tel.072-668-3275

株式会社ウィット 検索

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501

Fax.072-668-3276

HP.https://wi-t.co.jp/

石川県立美術館だより  
第472号(毎月発行)  
2023年2月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。